

やしサノエ

会報

2014 No.21

発行 江差追分会

2014.7.1

北海道松山郡江差町中歌町193-3

TEL 0139-52-5555

FAX 0139-52-5544

ホームページアドレス <http://esashi-oiwake.com/>



「江差追分節 魂の唄を聴く」 第一部 江差追分の変遷 より

左から寺島絵里佳、木村香澄、青坂満上席師匠、小笠原次郎上席師匠、近江八声上席師匠、房田勝芳上席師匠、渋田義幸上席師匠、浅沼和子上席師匠

日本の心を繋ぐ努力に感謝

江差追分会会長 江差町長 濱谷 一治

平成26年、年明け早々江差追分を機軸とした祝賀会が多数開催されました。2月には、第26回江差追分全国大会優勝者 久保田隆洲師の札幌市文化奨励賞受賞祝賀会、北海道民謡連盟創立65周年祝賀会、3月には、第51回全国大会優勝者 柿沼初雄氏の祝賀会、第8回全国大会優勝者 山本ナツ子師の民謡名人位受賞祝賀会、そして4月には秋田中央会支部長 佐々木東雲師の秋田県文化賞受賞祝賀会等・・・

何れの祝賀会にも出席させて頂きましたが、今更ながら各地、各支部において「江差追分」に対する思いの強さを感じたのは私の思い上がりでしょうか。

どの祝賀会も冒頭から「江差追分」から始まるシナリオに胸が一杯になり、涙を抑えることができませんでした。

そんな中、今年地元で初めて「地元江差追分優勝者と師匠等」による「魂の唄江差追分節を聴く」としたイベントが開催され、全国各地から江差に駆けつけてこられた方々を初め、会場が満員となる盛況にただただ感謝・感謝でした。

このように、全国各地で江差追分を初め全国の民謡で日本の心を繋ぎ続けてくれている先生方には衷心より感謝と敬意を申し上げます。

特に、民謡の王様と言われている江差追分全国大会は、昭和38年に第1回大会を開催以来、今年で52回目の大会を迎えることになりましたが、これまで江差追分を守り育ててくれた先人に心から感謝を申し上げますと同時に、経験豊富な上席師匠や各師匠の知識と技術を存分に活用させて頂き、今後の江差追分を保存、伝承して戴く若い指導者の育成や次代を担う子供達に追分伝承のために最大の支援と援助の努力を惜しまないつもりであります。

今後追分の普及、指導者の育成、後継者の育成のため多くの追分関係者のご協力をお願い申し上げる次第です。

結びに、私が何時も心に持ち続ける語録を紹介いたします。追分を口ずさんでいる方にも通じる言葉と思います。

「千日の稽古を鍛(たん)とし、万日の稽古を練(れん)とす」・剣豪宮本武蔵の五輪書に武蔵自身の体験から書いた語録です。

・千日＝3年間の練習を経た動きは一生の技として身につく
・万日＝格段に高くなる

平成26年度江差追分会総会

高齢者特別奨励賞(仮称)の創設 少年少女ジュニア追分セミナーの開講

本年度江差追分会総会が4月27日町内のホテルで開催され、総会前の理事会で提案議案が協議されたのち、新年度事業計画並びに予算が決定されました。決算、予算のほか主な議案としては追分会会則や師匠資格認定基準などの改正が議決されました。

(松村 隆 理事)



総会に先立ち出席者全員で追分を合唱

本年度予算総額は2671万円、前年度に比べ140万2千円の増額となった。増額となったのは、後継者育成対策として少年少女を対象に、新たにジュニア追分セミナーを開講する措置によるもので、ほかは例年同様の事業執行措置となっている。

収入では町費補助470万円、ジュニア追分セミナーの北海道補助50万円が見込まれた。また、師匠、準師匠ほか指導資格者審査料が前年実績に基づいて51万円増額された。

本年度事業計画の要旨
本年度事業計画もほぼ例年通り行われるが、会員の高齢化により熟年会員の増加傾向が著しく、一方若年者の加入が停滞し今後の課題が提起されている。

事業計画の展開と変更

本年度事業計画の新たな展開と主な変更点は次の通り。

◆**熟年大会における高齢者特別奨励賞(仮称)の創設**

80歳以上の高齢者で地区選抜大会で選ばれた中から入賞者とは別に奨励に値する特別奨励賞(仮称)を創設する。

◆**追分セミナーに尺八伴奏の常設**
セミナー受講指導に尺八伴奏を常駐し指導する。

◆**ジュニア追分セミナーの開講**
少年全国大会の増加傾向に対応、後継者育成も合わせて、全国各地の少年少女を本場江差に招致、地元少

年との交流による追分習得セミナーをテストケースとして開講する。

◆**国際的イベントに追分披露参加の展開**
2017年アジア冬季競技大会、2020年東京オリンピックなど国際イベントに「日本民族の唄」として追分披露出場を目標に活動を展開する。

◆**追分会組織の普及促進**
全国47都道府県中、支部のない25県に支部設置を目標に、全県各地で追分指導体制がとれるよう普及促進を図る。

江差追分会会則の改正

会則については従来から組織運営上不合理な条項の改変が検討されてきましたが、その結果により指導資格者(師匠など)の認定など条文が整理改正された。

主な改正内容

師匠認定資格には支部の設置が義務付けられていたが、今回の改正は支部2名の師匠を認め、さらに師匠の資格認定要件も師匠研修会参加10回以上から、申請時前の5年間において6回以上とされた。
準師匠認定も30歳以上の年齢制限が変更され、師匠資格の若返りに道がひらかれた。

◆ 顕彰者

今年は次の方々を全国大会時に顕彰することに決まりました。

◆ 功勞表彰

杉山 貞夫 (石川県中央支部)

堀江 孝次 (白老緑清会支部)

高岸 喜重 (苦小牧逸栄会支部)

◆ 支部奨励賞

静内支部 支部長 本多 充枝

資格者承認

今回、新たに認定された方々です。



◆ 師匠

仲村 菊江 (大和菊華会支部)

瀧本 豊壽 (深川支部)

小川つた子 (登別こだま会支部)

石垣 博 (苦小牧小春会支部)

佐藤 ミチ (水堀愛好会支部)

◆ 準師匠

伊藤 逸栄 (苦小牧逸栄会支部)

野原 弘子 (千歳支部)

長江重津子 (札幌孝和会支部)

村田 眞二 (札幌隆星会支部)

本田 勝三 (函館澄声会支部)

西川 俊昭 (声友会支部)

寺島絵里佳 (水堀愛好会支部)

小野 美香 (追分塾支部)

末武 忠雄 (江友会支部)

石崎 忠夫 (深川支部)



◆ 講師

有泉 哲郎 (登別こだま会支部)

野村 勝繁 (函館千曲会支部)

越前 美廣 (仙台支部)

本間 久代 (かもめ会支部)



◆ 準講師

道高 勉 (北檜山支部)

湯本 護 (東京神田会支部)

川村 順吉 (札幌湧芳会支部)

松村由香子 (大阪春風会支部)

金子 強 (室蘭白鳥会支部)

◆ 支部設置承認

新たに一支部が承認され、総支部数161支部、会員数3,527名となりました。よろしくお願ひします。

支部名…宮城県南支部

支部長…坂東 勝典

会員数…20名

所在…宮城県名取市

◆ 総会事項

役員の出選と欠員

一 役員は、全国各地区運営協議会の代表者などから選出されているが、北信越地区運営協議会長の杉山貞夫氏から退任届出がありました。変わって中村栄一氏が理事に就任され、平成27年総会までの任期を務めることになった。

二 学芸部門理事岩渕啓介氏(札幌)、監査役干場芳巳氏(江差)より、平成25年度をもって退任の申し出があり受理された。

会則第10条の規定により理事35名以内、監事3名の定員に支障がないとして、次期総会までの欠員とするところが承認された。



「魂の唄を聴く」公演に反響

先達師匠の語り唄に人気

本場追分を次世代につぐ

江差追分全国大会が半世紀を超え、我が国民謡界に先導的な活動を展開してきたが、その追分節の真髄ともいえる「魂の唄を聴く」公演が4月26日江差町文化会館で開催された。

最近、追分節が固定化して本来の曲調が失われているという風潮のなかで、先達師匠の唄から、唄心を探り次世代に受け継ぐ試みが込められた舞台が反響を呼んだ。追分会江差地区運営協議会が地元的意思を集約して実現にこぎつけた。

第一部から第四部まで演出され、ベテランの首席師匠から若手まで、それぞれの年代で活躍する唄い手の熱演が観客を魅了した。

第一部追分の変遷 首席師匠6名が炉端を囲み、追分節の生い立ちから本場で唄い継がれてきた古い時代の追分をうたう。追分の由来を語りそれぞれの持ち味はさすがで、深い唄心に古調の味わいを知らされる。

第二部七節に追分人生を乗せて それぞれの年代で全国大会に出演、自らの境地に挑む師匠9名が熱演

第三部次代を担う 次の世代を担う若手6名の唄と少年少女大合唱。

第四部魂の唄を聴く 首席師匠の長老格が真髓の唄心をつたいあげる。半世紀の年代を唄い続け声量が衰え

ても個性豊かに持ち味をうたう。定番でない歌詞を見事に唄いこなすのもベテランならではの味わい。本場江差地区運営協議会が独自の試みで、次世代に受け継ぐ課題が込められていた。

第50回大会記念シンポジウムでは若い世代の掘り起こしと、広い分野の個性を生かす唄が提唱されてきた。また、会員が高齢化する一方、若手の民謡離れで次世代にむけた指導者、後継者の対策が迫られている。全国大会に依存するだけではなく、広い分野から追分を提供してほしいという声がかかれた。

先達師匠が担ってきた追分を次の世代に何をどう引き継ぐか、追分組織の課題を担う公演であった。

磯の匂いのする舞台に感動

日胆地区 熊野 正宏

人の声質というのは、生まれつき持っているものと、育った環境と、そして本人の性格が絡み合って出来上がると言われる。声質を変えたいということが、いかに困難なことかということがわかる。

「やっつと、追分声になってきたなあ・・・」と、江差の師匠から言われるようになるまでには相当の鍛錬を要する。そして、次に唄の味わいだ。声もいいし、唄もうまいが、なにか心に響くものがない。もっと「磯の匂い」のするような唄を・・・と江差の師匠は求める。それは、江差追分という唄を通して、江差という土地の風土や先



人の苦勞に思いを馳せて欲しいとの願いが込められた言葉に他ならない。

そうだ、追分はもっと個人的で自由だったんだ・・・ということを感じさせてくれたのが、「第一部 江差追分の変遷」の舞台である。かつて、土地の唄い手たちが囲炉裏を囲み自慢の喉を競い合った場面の再現。舞台に立たれた先生方の何人かは、往時ならすでに古老と呼ばれたであろう年代でもある。茶碗酒の似合う場面は、素唄だけの方が相応しかったが、個性豊かな出演者の熱演が観客を魅了した。

フィナーレで舞台上に勢ぞろいした出演者の顔ぶれは、江差が追分の本場であることをあらためて感じさせた。大人の出演者だけではない。唄い手、ソイ掛け、三味線、尺八、地元の将来を担う子どもたちの姿に胸が熱くなった。今年5月11日、J R 江差線が七十八年の歴史を閉じた。最後の運行となった江差発木古内行き。見送った寂しさと同じ思いを江差追分全国大会の舞台で味わうことのないように、江差追分の素晴らしさを後世に伝えていく義務が我々にはある。

年輪の追分に魂

関東地区 桑名 靖生

4月26日(土)に開催された「江差追分節 魂の唄を聴く」は、私を含め多数のお客さまに感動を与えてくれました。

そして、私は

年年歳歳 花相似たり

歳歳年年 人同じからず

という中国の漢詩「白頭を悲しむ翁に代わる」の一節を思い起こしていました。

・・・毎年花は同じように咲くが、年毎に人は衰え、代わっていく。・・・花は江差追分であり、それを五十年



を超える年輪を今に、師匠方が唄う。何人もの師匠の唄が私の心の中を駆け巡りました。

人は若い、そして衰える、それを若い世代が継承してゆく。平成になつてから故人となられた方々の顔とお名前が、プロジェクトから舞台の大きなスクリーンに次々に映し出される。流れる追分の掛け合いの唄声と、今は亡き懐かしい方々の顔が重なり、思わず涙が溢れました。

変わらぬものは江差追分節。舞台で唄い継がれていくその様子に、改めて江差追分の魅力と深さ、不思議さを感じました。

又、「江差追分は、上手に唄えるのだけが決して良い唄ではない。声が衰え、声がかすれ、息が切れても、人に感動を与えられる唄が江差追分であり、一生懸命唄えば、追分は必ず応えてくれる。」私の独断と偏見ですが、師匠方の唄は、それを改めて私に教えてくれました。

未熟な私の追分の「言い訳」をする訳ではありませんが、これからも「私は私なりの追分を唄おう。自分の心が穏やかに過ごせるように。精

進するのを怠らず、上手、下手は二の次に」と知りました。

これから、きつと拙い自分の唄も楽しく、ゆつたり、安心して唄える

在任のことば 7節14声の『江差追分』

もありですよね？
前事務局次長 尾山 徹

「お父さん、なかなかでしょう！」車の中で一節うなった私の江差追分に、高2の娘からこんな言葉をかけてもらいました。年頃の娘の前で下手な追分を唄う私も私ですが、乗ってくる娘も娘。・・・素直に嬉しかった。

来町者の皆さんには江差追分を『民謡の王様』と紹介しますが、実際、100人以上いる同僚で追分会会員は片手で余ります。「この唄は全国大会で優勝を狙う方々のもの」そんな勝手な解釈がそこにあるのかも。

私のような地元住民の先入観は克服できるのか。そして会員をはじめ多くの方々が年に何度も遠いこの町を訪ねてくださる魅力は何なのか。虎穴に入らずんば。・・と、昨年11月のセミナーに木・金の2日間お休みをいただいで参加しました。

ようになるだろう。これが今回の舞台を見聞して得た私の最大の収穫でした。

今でも一節に2回息継ぎが必要な「7節14声」でなければ乗り切れません。師匠の教えで少しできていたような気がする節でさえ一月もしないうちに「これ、違うな」という具合。とにかく難しい。しかしです、節度が入るまいが切れようが15分の自家用車通勤で「のす」時間は、行き詰った仕事や上手くいかない人間関係など俗世間のモヤモヤを頭の中から一瞬放り出してくれる、とてつもない効能を生んでいます。

少数派かも知れませんがこれもこの唄に秘めた魅力の一つでしょうし、だからこそ上手い方々の江差追分を聴きたいと思うのかも知れません。

今流れているコマージュのフレーズに「未来は得てして、常識の外にある」というのがあります。

この唄の良さをまだ知らない国中の方々にどうやって広めていくのか、事務局を離れましたが関係者の皆さんと一緒にその方策を探っていきたいと思えます。これからもよろしくお願います。



江差追分を学ぼう

秋田中央支部

平成25年11月20日、秋田市北部市民センターにおいて、土崎地区老人クラブ女性部の集いが開催され、秋田中央支部佐々木東雲支部長ほか会員3名が、江差追分に関する講義や歌唱指導を行いました。

土崎地区は、北前船寄港地で繁栄した土地柄から江差追分と縁が深く、平成24年「江差追分感謝の旅北前船寄港訪問事業」の際には、青坂満上

席師匠と全国大会優勝者の寺島絵里佳さんが訪問されています。

女性の集い当日は、75名の参加者に対して佐々木支部長が軽妙な語りで江差追分の由来を解説した後、会員が掛け合いで一本通して唄ってから追分を解説し、受講者全員で本唄を何度も合唱しました。

日頃、江差追分に限らず民謡を唄うことがない参加者は、熱心に講話に聞き入り、予定時間を過ぎてでも大きな声で練習を繰り返すなど、すっかり追分の魅力に取り付かれた様子で、「江差追分に触れて満足した」と感想を述べるなど、大変好評でした。

江差追分で師走をしめくくる

十勝3支部

江差追分会帯広、大平原、十勝大雪の3支部は、江差追分会と同会道東地区運営協議会の後援を得て、昨年12月22日(日)、帯広東コミュニティセンターでチャリティーコンサート第3回「江差追分と民謡のつどい」を開催しました。

男性会員と女性会員に分かれ江差追分の合唱で開幕しました。総勢44名の会員が、江差追分と自慢の民謡を力強く唄いあげたほか、入会間もない子どもたちが基本譜を手に江差追分に挑戦する姿に、会場一杯の観客から盛んな声援が送られていました。また、安来節の滑稽な踊りには、会場内に笑いが広がっていました。



「つどい」は、チャリティーコンサートを兼ねており、会員の浄財と決算残金合わせて4万1千円余りを北海道新聞社会福祉振興基金へ寄付しました。

参加会員らは、「来年もぜひ開催しようネ」と誓い合いながら師走を締め括りました。

中学校で追分授業

旭川支部

旭川支部では、昨年11月14日に旭川市立忠和中学校1年生116名を対象に、江差追分授業を行いました。

佐々木洋子支部長の他、会員6名が1時間目から3時間目まで、江差追分の歴史と背景や、尺八・三味線・太鼓の説明を行い、授業の最後には追分踊りを添えて、一本披露しました。



授業を受けた生徒の中には、是非、江差追分を唄いたいという男子も現れたほか、担任の先生も追分を唄うなど、生徒たちは大喜びしていました。



小学校で民謡講座

川崎支部横浜教室

昨年12月24日、子供たちに本物の邦楽に触れさせたいと横浜市の中田小学校からの依頼で、5年生105名を対象に民謡の会（鷗春会）が民謡講座を行いました。

小学生を対象としたこのような講

座は初めての試みなので、どの程度興味を持って聞いてくれるか不安でしたが、日本の民謡について、それぞれの唄の生まれた時代の背景や人口の推移、人々の生活、今の子供たちと民謡の関わり合いなどをパワーポイントを使って説明したほか、会員による唄や三味線、尺八の生演奏を楽しんでもらいました。



後日、子供たちから届いた感想文の一部を紹介します。

「最初民謡を聞いた時、迫力があつ

てすごいなとおもいました！尺八や三味線なども生きていっているような音で、民謡はすごいなとどんどん思っていました。みなさんのおかげで色々民謡の事が知れてありがたかったです。本当にありがとうございます。これからも民謡を大事にしていきたいです。」

「私は民謡のことについてあまり知りませんでした。この民謡講座でわかったことがたくさんありました。民謡はすごい昔から唄われていることや、とてもたくさんあることにびっくりしました。三味線の音色にもおどろきました。」

この他にも多くの子供たちが初めて生の演奏を聴いて、三味線や尺八の音のきれいな事と、その迫力に驚いたようです。また、70歳・80歳を過ぎたおじいちゃんたちの唄の迫力にもびっくりしたようでした。民謡の歴史や成り立ちにも興味をもった子供もたくさんいました。

このような感想文をもらい、本当にやって良かったと会員みんな喜んでいきます。また、子供たちに教えるつもりが、逆に励まされた民謡講座となりました。

育樹祭で追分合唱

江差追分の歌詞で「あれが蝦夷地の山かいな」と謳われているヒバ山の復活と第50回全国大会の成功を祈念して、一昨年、ヒノキアスナロ500本が多くの皆さんの手によって植樹されました。

このたび、第2回あれが蝦夷地をやまかいな育樹祭が行われ、腰の高さほどに成長したヒノキアスナロの周りの草刈をしました。

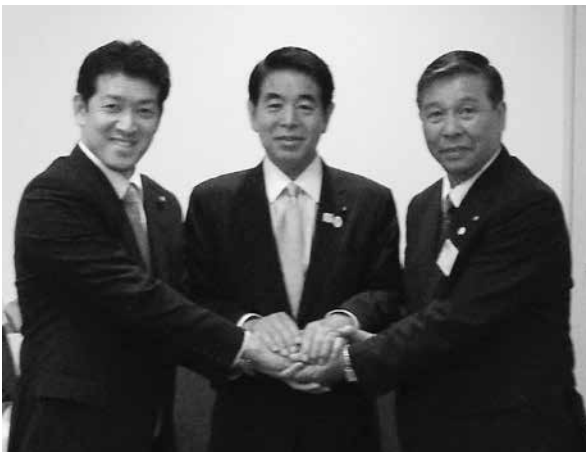
作業を終えた後に、一日も早い成長を願って江差追分の大合唱を行いました。



下村文部科学大臣へ追分披露を要請

2020年東京オリンピックを所管する下村文部科学大臣へ濱谷会長が江差追分節披露を要請

6月14日、下村博文文部科学大臣が来道する機会をとらえ、江差町長と江差追分会長の連名により東京オリンピック並びに2017年アジア冬季競技大会における江差追分節の披露実現について、下村文部科学大臣と前田一男衆議院議員へ要望書を手渡しました。
国際イベントにおける追分節の披



下村文部科学大臣（中央）を囲んで

事務局体制が変わりました

今年4月1日に行われた江差町役場の人事異動により、事務局次長が変わりました。

会員の皆様には何かとご不便やご迷惑をお掛けするかもしれませんが、これまでの事務局同様によりしくお願いいたします。

新事務局体制

事務局長 大杉 則明（留任）
事務局次長 岸田 礼治（新）
書記 国仙 敏孝（留任）
竹内 裕子（留任）

お世話になりました

前事務局次長 尾山 徹

この度の人事異動により、課長職に昇格し、教育委員会社会教育課長となりました。

今後は、前任の小田島事務局長の後任として、社会教育の立場から追分に携わることになりました。

情報をお待ちしています

「ヤンサノエ」編集部では、皆さんの地区や支部での活動に関する情報をお待ちいたしております。

まずは電話で、お知らせ下さい。

【編集】 館 和夫・松村 隆
高田 裕
【企画】 江差追分会事務局

露実現に向けた取り組みについては、本年の追分会総会で確認されており、北海道洞爺湖サミット時の追分披露や、半世紀を超える全国大会の開催、国内外に有する追分会支部など追分会が誇る数々の実績を説明しました。
この度の要請活動は、追分披露実現への初めの一步にすぎません。今後も、機会をとらえ活動してまいりますので、追分会会員、支部、地区運営協議会の皆様のご支援、ご協力をよろしく願います。



秋季江差追分セミナー

今年も、参加者からの要望が多かった尺八伴奏者の常駐化を行います。これに伴い、受講料は昨年より2千円多い1万7千円となります。詳細のご案内は別途行います。たくさんの方の参加をお待ちしています。

10月30日～11月1日
11月6日～11月8日
11月13日～11月15日

お問い合わせは、江差追分会事務局へ
☎ (0139) 52-5555